

影からみつめる 富山の“光” ～ツーリズムで富山を 再発見しよう～



令和3年度 高校生とことん科学セミナー
実施報告書

令和4年3月13日(日)実施

今年度の事業の概要

高校生とことん科学セミナーは、平成 17 年度にはじまり、今年で実施は 16 回目となった（令和元年度は中止）。

今回の事業は、1 日をかけて神通川流域をたどる中で、様々な事物を見たり聞いたりすることを通し、「風景」の見方を感得する気づきを目指すものであり、観光についての新たな多面的視点を得ることを目的とするものである。

開催概要

実施日：令和 4 年 3 月 13 日(日) 9:00~17:00

実施場所：富山県総合情報センターほか

講師：富山大学学術研究部人文科学系准教授 すずき こうしろう 鈴木 晃志郎 先生

略歴 専門は人文地理学。博士(理学)。首都大学東京(現・東京都立大)等で研究、2017 年より現職。富大人文学部では観光学・地理学を教える。バックグラウンドである行動地理学、社会地理学から、観光にまつわる諸問題に広く取り組み、認知・態度・価値観・規範などの心理的、社会的あるいは文化的要素を通じて、ミクロな視点から観光行動を捉えることにアプローチしている。

参加者：高校生 10 名

※参加者募集時の生徒向け案内：

富山で観光、と聞くと、皆さんの多くがイメージするのは立山黒部アルペンルートや五箇山でしょう。このセミナーは、そういうありがちな観光とは少し違った切り口から富山を見つめなおしてみる試みです。用意された 5 つの謎を一緒に解き明かしながら、山から海へと探検の旅に出ましょう。あなたの導きの糸になるのは、東日本大震災を契機に日本でも注目されるようになった新しいツーリズムのカタチ。皆さんの暮らすこの町に残された過去の記憶が、当たり前前の日常を考え直すきっかけをくれることでしょう。

内容

- 1 実習Ⅰ（講師自己紹介とテーマ提示等）9:05～10:10
- 2 実習Ⅱ（巡見等）10:10～12:20
昼食 12:20～12:55
- 3 実習Ⅲ（巡見等）13:00～15:30
- 4 実習Ⅳ（成果発表等）15:30～16:20
- 5 講義（最終解題）16:20～17:00

1 【実習Ⅰ：講師自己紹介とテーマ提示等】

講師の自己紹介とともに、地理学≠地理であること、地理とはどのような学問であるか、スライドを元にした発問などを通して学んだ。

後半では、これ以降出かけるバスツアーでの下車地点に隠された5つの謎を提示し、謎への回答を元にひとつの繋がりのあるストーリーを作るというミッションが提示された。

謎は、下記の通りである。

- ①**茂住**：山奥にひっそりと佇む謎の人工池は何のため？
- ②**猪谷**：猪谷駅の巨大なアパートは、なぜこのような場所に建っている神通川の中のアヤシイモニュメントと、巨大なアパートとの関係は？
- ③**ますのすしミュージアム**の西に、なぜ工業団地や大型公共施設が集まっているの？
- ④**健康パーク**：資料館の見学語りと資料から、考察のヒントを得よう
- ⑤**新屋公民館**：ここで蓄積された技術と経験が生かされた、のちの歴史的イベントとは？



2 【実習Ⅱ：巡見等】

- ①**茂住**：山奥にひっそりと佇む謎の人工池は何のため？
- ③**ますのすしミュージアム**の西に、なぜ工業団地や大型公共施設が集まっているの？

富山県総合情報センターからのバス移動の道すがら、講師より沿道の地形等について説明を受け、特に婦中大橋を過ぎたあたりから「ますのすしミュージアム」と富山空港の付近を歩いていく中で、工業団地や大型公共施設の集積の様子に注目した。

岐阜県の東茂住集落で、東京大学の宇宙線研究所(右図)や、国道41号線上から山上に見える工業施設らし



きもの様子、また対岸に渡って、神岡鉄道(旧国鉄神岡線)の茂住駅(廃駅)(左下図)を外観見学。先ほど見た工業施設を講師の説明を受けつつ茂住駅側から眺めることで(右下図)、事前にもらった資料と見比べながら、施設の性格等について推理を巡らせた。



②猪谷：猪谷駅の巨大なアパートは、なぜこのような場所に建っている？神通川の中のアヤシイモニュメントと、巨大なアパートとの関係は？

猪谷駅付近にあるアパートを外観見学。これも講師の説明を受けながら、目的を考えた。神通川の中のコンクリート構造物についても川縁から望見し、その用途について推察した。



3 【 実習Ⅲ：巡見等 】

④健康パーク：資料館の見学語りと資料から、考察のヒントを得よう

富山県立イタイイタイ病資料館で、職員による説明とガイダンス映像の視聴、語り部講話を受けた。テーマについて、関連の一端を掴んだような反応も一部見られた。



⑤新屋公民館：ここで蓄積された技術と経験が生かされた、のちの歴史的イベントとは？

目的は、新屋公民館の横にある石碑を見ることと、イタイイタイ病対策協議会会長の高木勲寛氏から、イ病やその石碑等についてご説明いただくのが目的であった。「公害防止協定」や、復元事業の実際について、生の情報に触れることができた。



4 【 実習Ⅳ：成果発表等 】

(プレゼン準備と発表)

30分ほど時間を設定し、5つの謎の解答を結び付け、ひとつの、繋がりのあるストーリーを作る作業をチームごとに行う（チームは、1チーム5人の2チーム編成）。

ヒント無し・ネット等での検索無しでの考察になるので、意見が飛び交う。なかなかまとめ切れず、少し時間延長をしていただいた。

発表はパワーポイントで行った。茂住の人工池の解釈について両チームとも難航したものの、猪谷駅周辺施設や下流域の謎の解釈については核心に迫るものがあった。

事前にもらった資料や、自分の見たもの、感じたものだけを元にした考察で、時間延長もある中、なかなか苦戦したものの、立派に解答を元に肉付けし、ストーリー性を付けることができた。



5 【 講義：最終解題 】

「観光」という言葉の定義から、今回のテーマ「光」と影の関係性に触れ、「ダークツーリズム」の概念について実例とともに触れた。

また、今回の「謎」が、神岡鉱山に関わる産業遺産や公害防止施設であることや、下流域の工業団地等がカドミ汚染のあった地域であることを、地形学や化学の観点から指摘した。それと対比し、「光」の面として神岡鉱山の価値や



電源開発と共に発展した富山の歴史や、汚染農地復元が東日本大震災後の除染に活用されていることに触れ、神通川の流域は、一本の河川領域をたどることで一つの文脈で語ることができる立派な観光資源であると総括した。

受益圏・受苦圏という概念や、地形学的要素を提示することで、神通川流域に散在する資源を結び付け、ストーリー性のある観光資源とすることができるという意見には、感銘を受ける様子も見られた。

まとめ

今回は、セミナー内容に興味を持って応募したというよりは、進学の参考にしたかった参加者が多いが(*cf.*アンケート結果 Q6)、セミナーでの活動を通し、進学への関心を高めることができた点で有意義であったと考える。

なお、時間的には、10時頃～15時過ぎ頃までのツアーと、チームでの思考・発表と講義の内容を、併せて1日弱で行うという野心的な内容であり、概ね当初の計画通りであったといえる。無事終了することができたことは、先生の進行や目配りは無論のこと、参加者の積極的な行動が後押ししたものである。

参加者10名の背景は様々であるが、概ね進学希望であり、特に経済・観光関係への進学を考える生徒が多かった(*cf.*アンケート結果 Q1-1)。

しかし、鈴木先生のお話の内容に感銘を受けたり、謎解き自体に面白さを感じたりという体験は本イベントを印象深いものとしており、見学でもイタイタイ病について学校での学習や見学以上に深く知ることができたことを指摘する声がある(*cf.*アンケート結果 Q2, Q3)。

印象深かった体験として、これまで知らなかった分野の知識を得て、視野が広がったことを挙げるが目立ったこと(*cf.*アンケート結果 Q2)、セミナーを友達・後輩に勧めるかという設問でも、自分の世界観の変容を語る声が見られること(*cf.*アンケート結果 Q3)は、当たり前の日常を考え直すきっかけとすることができたという点で、ねらい通りとなった。

本事業の良い点は、高等学校等の教育課程では掘り下げることが難しい学問領域や、分野横断的な内容についての大学教員の指導を、希望者に、しかも長時間体験できるところに妙味があると考えており、次年度以降もより広く選定を進めていきたい。